

## VI おわりに

糖尿病と21世紀の文明の位置づけを考える—先進国・途上国共通の全世界的問題として

世界的に見て、長寿化と生活水準の向上により、感染症から非感染症そして慢性疾患の増加へと疾病の構造がシフトしてきていることは前述した。感染症に関しては、医療による治療が不可欠であるが、2型糖尿病をはじめとする慢性疾患の原因の多くは、生活習慣と深く関わっていることは、ほぼ確実であり、自己管理を中心とした予防が中心とすることで、医療費の抑制に繋がるものと期待できる。「病気になってから治療する」のではなく「病気にならない、なりにくい生活習慣を身につけ、健康を維持する」ことに重点を置くことにシフトして行くのが望ましいあり方と考える。

医療技術の発展と共に医療費の高額化は必至であり、技術の進歩は喜ばなければならない。しかし、より多くの人々がより平等に治療を受けるために保険制度は維持しなければならない。そのためには限りある医療費を有効に使わなければならない。各国、年々高騰し続ける医療費の抑制には必死に取り組んでいるが、抑制の有効な手段は、医療施設の経営及び薬剤配分の効率化と予防可能な疾患を予防することが新たな治療法の開発よりも実現可能な手段であるものとする。

生活習慣病の予防のためには、自己管理が大切であることはいままでもないが、医療や保健の面だけから予防策を唱え、指導、教育するには限界がある。経済発展中心とした商業主義のいわゆる現代文明は全世界的に広がりを見せており、効率重視に向かうあまり、伝統的な生活習慣を軽視する傾向へ向かっていっている。食習慣においては、手軽に摂取でき、栄養バランスを欠く高カロリーの菓子類・インスタント食品・ファーストフードが伝統的な食事にとって代われ、コンピューターゲームの普及により子供たちが野外で遊ぶ機会が少なくなり、便利で効率的なライフスタイルが運動不足を引き起こし、生活習慣病の引き金になっている。これらの食物や電化製品などの商品を購入させるために提供者側もマーケティング徹底的に行い、効果的な宣伝を行い、消費意欲を最大限引き出そうと努力しているため、健康に悪いと頭では理解していても実践を伴うのが難しいのが実情と考えられる。

自動車、電化製品を始めさまざまな製品・商品を大量生産し、そして、それらを購入するために金銭的收入を得るために農村人口の都市への大量流入により都市の過密化、ひいては伝統的な家庭や地域共同体の崩壊をも引き起こしているのが現状であろう。日本でも“孤食”が問題化してきており、かつての一家団欒という言葉は死語になりつつある危機にある（2003年8月11日発行、AERA誌の記事 p.10～13によれば、日本の中学1年生61人の調査によれば、1割は夕食を一人きりで取り、1割は子供たちのみで夕食をとっており、インスタント食品、コンビニエンスストアでの出来合いの食事に頼っている内容の記事が掲載されている。2002年9月9日発行の

**TIME** 誌にも、シンガポール、香港を中心としたアジア諸国でも子供が **1** 人でファーストフード偏った食事をするが多くなり、子供の **2** 型糖尿病が広まっているという記事が掲載されている) といわれている。

家族の団欒を実現させるために、また、健康、生活習慣に関心を持つための余裕を持つためには、労働時間の短縮を含め、産業界の協力も必要であろう。家族、地域の人々と精神的な満足を得ながら食事をすることで、過食を防ぐ効果も期待でき、**2** 型糖尿病の予防だけではなく、高血圧や心疾患など生活習慣病全般を予防することをも期待できるものと考ええる。

**2** 型糖尿病の予防策、つまり健康を維持するための生活習慣実践することを通じ、大量消費に支えられた商業主義的現代の文明を再考し、目先の経済発展ではなく、持続可能な人類の未来の発展を考えるべき時期と提言したい。

## VII 謝辞

修士論文作成に当たり、指導教官の田村誠先生、そしてご多忙にもかかわらず、ご指導してくださいました梅内拓生先生に心から感謝申し上げます。

また、資料や情報の収集に協力してくださった方々、聞き取り調査に協力してくださった方々に心からお礼申し上げます。

VIII 引用および参考文献

- 1) 川端真人・内山三郎監訳・監修「21世紀・健康・世界」 英伝社 p.192)
- 2) Sharad Pendsey「Practical Management of Diabetes」 JP Publishing.Preface to the First Edition
- 3) Wolfgang Gruber, Tresa Lander, ほか 馬場茂明、大里修一訳：糖尿病・糖尿病ケアの経済学. 医歯薬出版 1998, p15
- 4) Wolfgang Gruber, Tresa Lander ほか 馬場茂明訳：糖尿病・糖尿病ケアの経済学. 医歯薬出版1998 p.14
- 5) IDF e-Atlas [www.idf.org/e-Atlas](http://www.idf.org/e-Atlas)
- 6) Hajera Mahtab, Minati Prabha Chowdhury: Rural Women, Diabetes Voice September 2002 Volume 47 Special Issue p.50
- 7) World Bank Economic Indicator
- 8) 浜松誠二 東アジア共生のシナリオ 2002.3.8  
<http://www.nihonkaigaku.org/ham/eacox/200prob/210envi/21food/indmfdmt/indmfdmt.html>
- 9) 大石マリ子：2. 糖尿病医療と経済. 糖尿病学の進歩 '99 第33集 日本糖尿病学会編. 診断と治療社 p.53~54
- 10) 総務省統計局・統計研修所編 日本の統計 2003
- 11) 大石マリ子：第一線の糖尿病治療から見る医療経済. プラクティス 19(1):35 2002
- 12) 目で見える医療保険白書—医療保障の現状と課題—平成15年版 医療保険制度研究会編集 ぎょうせい p.12.
- 13) 李啓充 ハーバード大学医学部助教授 「米国マネジドケアの失敗から何を学ぶか」 2003年7月5日講演資料
- 14) Wolfgang Gruber ら、馬場茂明訳：糖尿病・糖尿病ケアの経済学. 医歯薬出版 1998 p.48
- 15) 総務省統計局・統計研修所編 世界の統計 2003
- 16) Maureen I Harris : *Diabetes in America, 2nd Edition* Table of Contents  
Section IV Economics Aspects of Diabetes Chapter 29 Health Insurance and Diabetes p.597 <http://diabetes.niddk.nih.gov/dm/pubs/america/contents.htm>
- 17) 1994 Family Income and Expenditure Survey
- 18) Ambady Ramachandran : Urban India A Breeding Ground For Diabetes  
Diabetes Voice March 2002 Volume 47 Issue 1 p.18~20
- 19) Wolfgang Gruber, Tresa Lander, ほか 馬場茂明、大里修一訳：糖尿病・糖尿病ケアの経済学. 医歯薬出版 1998, p.65

- 20) 財団法人海外職業訓練協会 インド  
<http://www.ovta.or.jp/info/asia/india/oldhrddb/ind-s001.html>
- 21) 柴田明夫 丸紅経済研究所副所長 2003年8月27日「インドの経済・産業について」
- 22) 国際協力事業団 企画・評価部 平成15年3月 国別貧困情報 インド
- 23) Wolfgang Gruber , Tresa Lander, ほかに馬場茂明訳：糖尿病・糖尿病ケアの経済学. 医歯薬出版1998 p.79
- 24) Hajera Mahtab and Minati Prabha Chowdhury:Rural Women The Bangladesh Perspective Diabetes Voice Setember 2002 Volume47 Special Issue p.49～51
- 25) Altte Meyer : WDF and Diabetes care in Tanzania makinga difference Diabetes Voice July 2003 Volume48 p.37～38
- 26) 財団法人海外職業訓練協会 タンザニア  
<http://www.ovta.or.jp/info/africa/tanzania/oldhrddb/tan-h003.html>
- 27) Wolfgang Gruber, Tresa Landerら、馬場茂明訳：糖尿病・糖尿病ケアの経済学. 医歯薬出版1998 p.40
- 28) Geoff Gill, Jean-Claude Mbanya, George Albeti:Diabetes in Africa.FSG Communications Ltd. p205～208
- 29) 第一章国別評価 タンザニア  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/kunibetu/gai/h09gai010.html>
- 30) 後藤由夫、鈴木吉彦 糖尿病とは「基礎編」(糖尿病 Net)  
<http://www.dm-net.co.jp/seminar/kiso/kiso.htm>
- 31) Geoff Gill, Jean-Claude Mbanya, George Albeti:Diabetes in Africa.FSG Communications Ltd.p1～6
- 32) Geoff Gill, Jean-Claude Mbanya, George Albeti:Diabetes in Africa.FSG Communications Ltd.p57
- 33) 厚生労働省 推計患者数の年次推移 入院一外来・疾病分類別
- 34) 厚生労働省 健康局総務課生活習慣病対策室 平成15年8月6日  
平成14年 糖尿病実態調査
- 35) 出典：厚生労働省 厚生統計要覧 第2編保健衛生 第2章医療 第2-84表傷病分類、入院一入院外・年齢階級別一般診療医療費  
<http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/youran/data14k/2-84.xls>
- 36) Susan J.Kennyら：Diabetes in America, 2nd Edition Table of Contents Section I Descriptive Epidemiology Chapter 4 Prevalence and Incidence of Non-Insulin-Dependent Diabetes p.63  
<http://diabetes.niddk.nih.gov/dm/pubs/america/contents.htm>Diabetes
- 37) CDC (Central Disease Control) Statistics  
<http://www.cdc.gov/diabetes/statistics/prev/national/fig1data.htm>

- 38) **WHO Diabetes** <http://www.who.int/ncd/dia/databases4.htm>
- 39) 財団法人医療経済研究機構 「社会保障の国際協力に関する研究調査」報告書 社会保障国際協力の理論に向けて～高齢化の地球的進行と日本の経験 平成9年3月 p. 22～23
- 40) **Mohga Kamal Smith:Why developing contry need access to cheap treatments for diabetes.Diabetes Voice July 2003 Volume 48 Issue 2 p 31～33**
- 41) 梅内 拓生 2000年7月 国際保健学序説—これからの国際協力への提言, へるす出版 p.118～121
- 42) **WHO ホームページ Diabetes** <http://www.who.int/ncd/dia/databases4.htm>
- 43) **Wolfgang Gruber, Tresa Lander**, ほか 馬場茂明、大里修一訳：糖尿病・糖尿病ケアの経済学. 医歯薬出版 1998, p.78